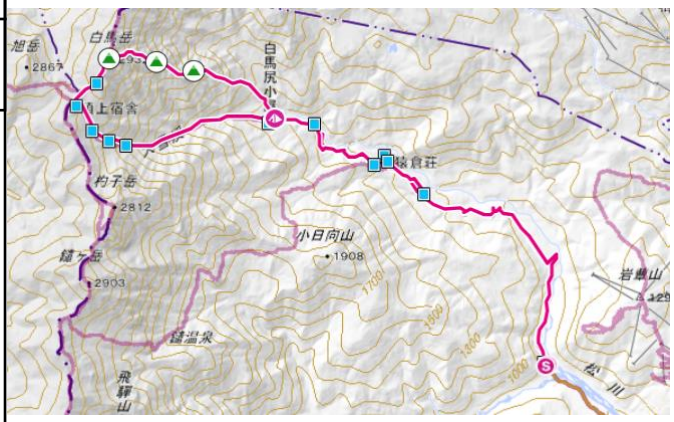
DENSO

4月度 例会 / 個人 山行報告書

報告者	鈴木	参加メンバー	CL 谷口 本多 鈴木よ（記）
報告日	5/14		
山域	北アルプス	山行日	2026.4.4～5
山名	白馬岳（主稜）		
山行目的	冬山バリエーションルートに挑戦	コースタイム（天候：天気図記号）	

配布先
集会：12
山行：1 リーダー
原紙：集会担当者

ルート図（地図を見て正確に）



25万分の1地図

コースタイム（天候：天気図記号）

4/4 雨

10:36	S	二股ゲート
59分		
11:36		中山沢
29分		
12:05 12:22		猿倉荘
5分		
12:27		鑓温泉分岐
35分		
13:01		御殿場
23分		
13:24	小	白馬尻荘

4/5 晴れ

3:13	小	白馬尻荘
153分		
5:45 5:53		第8峰
80分		
7:13 7:25		第5峰
217分		
11:02 11:08		白馬岳
23分		
11:30		白馬山荘
8分		
11:38 11:40		白馬岳頂上宿舎
8分		
11:48 11:49		お花畑
5分		
11:53		避難小屋
9分		
12:02		岩室跡
41分		
12:43		白馬尻小屋
35分		
13:18 13:22		白馬尻荘
12分		
13:35		御殿場
23分		
13:57 13:58		鑓温泉分岐
4分		
14:02		猿倉荘
16分		
14:18		中山沢
55分		
15:13		二股ゲート
1分		
15:14	G	ゴール地点

〈山行報告〉

2026年午年に午歳の3名で白馬主稜にトライし、成功した。2022年より何度か計画トライしたが、今回は、午年であるため絶対に成功させたかった。
初日は、雨天で傘をさしての移動で白馬尻荘付近にて幕営。雨天によりテント内までずぶ濡れ状態で各自で夕飯を済ませ18時頃就寝。夜中雨がテントをたたきうるさかった。
4/5 2時に起床し支度を済ませ3時に出発。天候は曇っていたが、雨はなんとか上がっていた。
付近に数パーティーが幕営していたが、自分たちが最初にスタートした。昨日までの悪天候でトレースは、ほぼ無し、谷口リーダのルーファイで尾根まで登る。
付近が明るくなってくる頃に、天候も回復し展望が開け美しい雪稜、リッジがはっきり見えこの先が険しいルートだということが分かった。
ワクワク感とドキドキ感が入り混じった感じだった。登るにつれ丸みを帯びた稜線からピン角のナイフリッジの連続へと変わっていく、ナイフリッジの右を歩くのか左を歩くのかは迷うところが多い。
どちらも同じように切れ落ちて入り部分は頂点を平均台を歩くがごとくバランスを取りながら慎重に進むが、突然の強風で体が持っていかれ緊張がMAXとなる。
登攀斜度のキツイところは、ピッケルで体勢を保持できるが逆に緩い登りはピッケルでの保持ができないため怖かった。天候が良くなって気温が上がってくるとすぐ右側の急峻な谷では何度も雪崩が起きてゴゴォーっと恐ろしい音が鳴り響く、下りの大雪渓は大丈夫か不安になる。ところどころで難関があり急峻な斜面を登るかそれを捲いてトラバースするかの判断に迫られる。どちらにしても難易度が高い。（次ページに続く）

確認（リーダー）
谷口

作成（報告者）
鈴木

〈リーダー所見〉

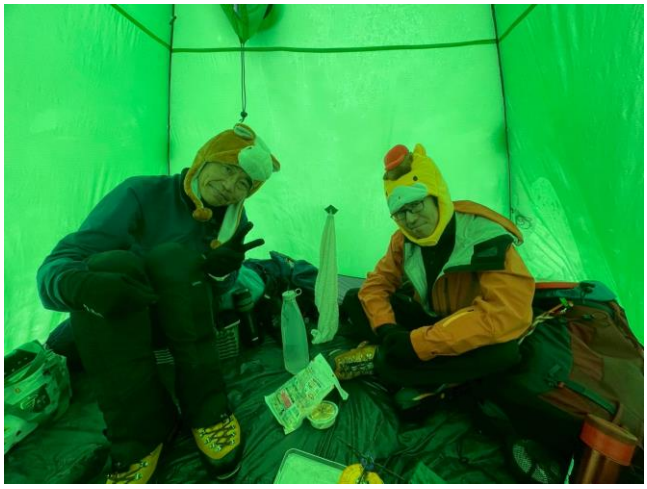
念願の白馬主稜を踏破できて感無量です。予報では土曜日の雨が日曜日も続くことになっており（個人的には）あきらめかけていましたが、メンバーの熱量に後押しされ現地判断とし、さらに日曜日の天気も良くなり最高のコンディションで登頂できました。白馬主稜は尾根に入るとスリルを感じる箇所が長く続き、体力的だけでなく精神的にも疲れました。信頼できるメンバーであったからこそ山頂まで行けたと思います。また残雪期の著名バリエーションルートへ行きましょう。（谷口）

DENSO

頂上が見え始めたところで一番の難関が現れた。正面の壁には雪がついていなく脆い岩肌、トラバースするルートは雪面が割れていて雪の状態悪くグズグズだった。
悩んだ結果、正面の岩を登ることになった。
谷口リーダーが取り付くも脆い岩は、次々と剝がれ落ちていく、途中まで登ったらもう降りることが無理だったのでそのまま何とか登りきった。雪の安定したところでスタンディングアックスビレーにてロープを出し残りの2名をフォローしてもらった。
自分もその岩壁を登ったがどの岩のホールドも脆くばっちり掴むことができず怖かった。
何とかノーテンションで登れたがフリーで登るには怖すぎる（落ちたら谷底まで一直線）谷口さんはすごい！。
そして、最後の60°の雪稜登攀。残置ハーケンでセルフを取りビレーOK、谷口リーダーがリード登攀。
60mロープだから計算上足りるはずと思いながらも不安であったがちょうど中間地点（30m）でスノーバーで、ランニング支点を構築し雪庇直下まで行ったところで右にトラバースし雪庇が小さくなる付近で乗越し登頂！。
ロープの長さはピッタリだった。ロープをフィックスし私がアッセンダーで登攀、ダブルアックスを使ったので安心して登れた。その後本多さんもフォローアップ登攀。
3人で山頂にて握手を交わした。
準備した馬の被り物と手ぬぐいにて記念写真を撮りそうそうに下山開始
心配していた大雪渓は、少し表層が雪崩ていたが大丈夫そうだったので一気に下山。テントまで2時間で下った（登りは8時間）
テントを撤収し最終の下山。疲れたのか猿倉からの林道がとても長く感じた。
温泉でさっぱりし本社駐車場まで、ほぼノンストップで帰り無事に白馬主稜山行は終えることができた。
谷口リーダはほとんど先頭でトレースをつけていただきありがとうございました。



雨の中スタート
（冬靴手持ちw）



びしょ濡れテントでご陽気w



少し明るくなってきた



稜線までがんばろー

DENSO



天気が徐々に回復



すごいとこ歩いてきてる





緊張が緩めれない

DENSO



最後の壁



最後の壁横から



上から撮ってます



山頂　馬の被り物



大雪渓の表層雪崩



帰りの長い林道歩き